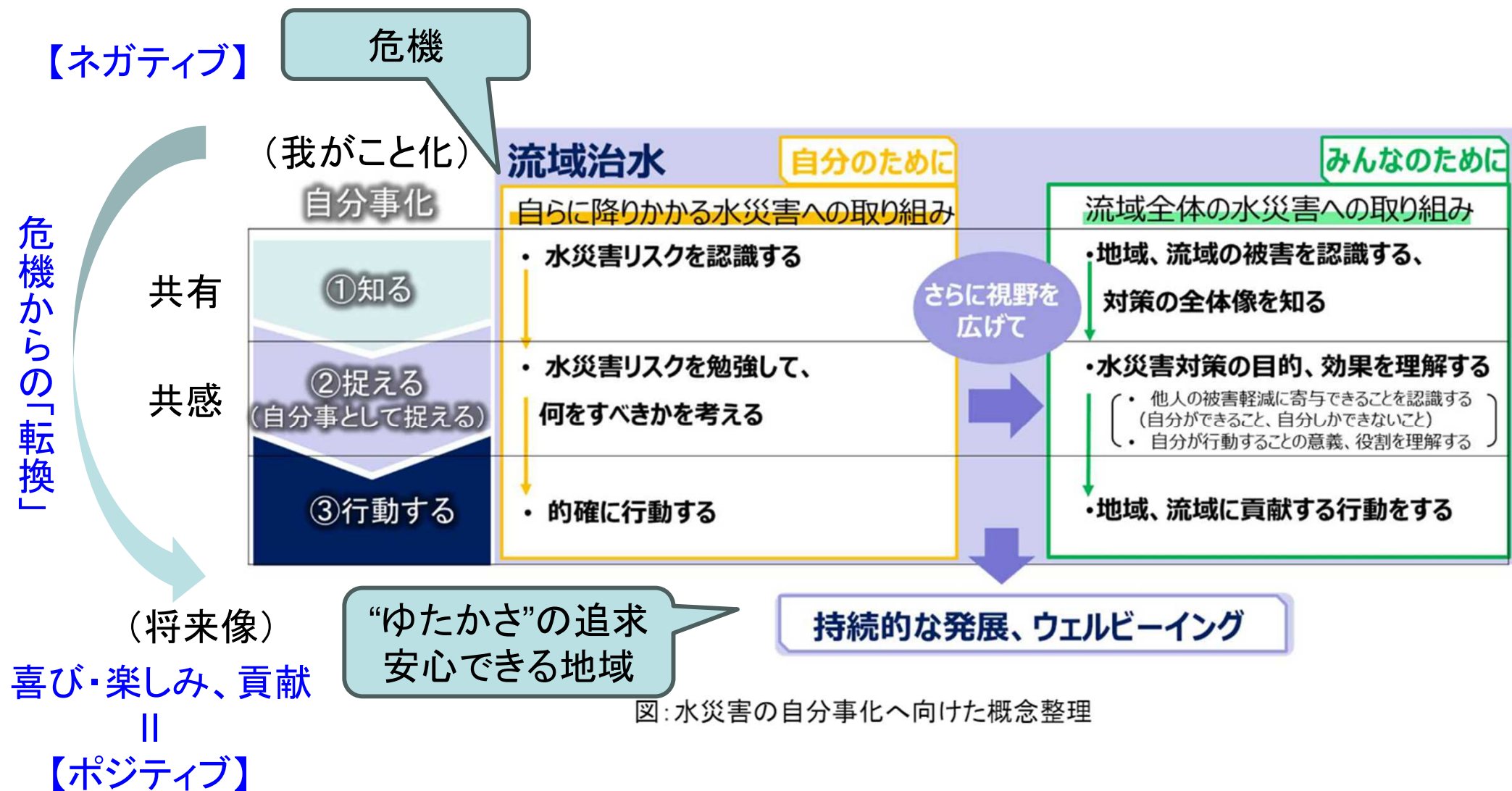


「危機」を「我がこと化」し、アクションにつなげるにはどんな取組が必要か？



出典：水害リスクを自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす流域治水の自分事化検討会

「水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす総力戦の流域治水をめざして」提言 P.3の図に加筆

(日本カーシェアリング協会HPより引用)
<https://www.japan-csa.org/>

危機 【東日本大震災】

能登半島地震でも
取り組み中

↓ (移動手段の喪失)



石巻発、
寄付車でつくる
やさしい未来。



(共感)
寄付
【貢献】

東日本大震災で約6万台の車が被災した石巻。
 全国から寄付いただいた車を使った助け合いから、この仕組みは生まれました。
 支え合う地域を作る「コミュニティ・カーシェアリング」。
 車を貸すことで人と地域を元気にする「ソーシャル・カーサポート」。
 災害の時に車で困らない地域を作る「モビリティ・レジリエンス」。
 石巻で生まれたこの助け合いの輪を広げ、やさしい未来をつくります。

(共有) 支えあい
【喜び・楽しみ】

特徴

①目的は『支えあう地域づくり』

『コミュニティ・カーシェアリング』はご近所同士で車を一緒に活用し合う地域のサークル活動です。一般的なカーシェアリングとは違って、地域コミュニティが運営し、支えあう地域づくりを目的としながら柔軟に車を活用します。

②ルールはお茶っこで決める

毎月集まってお茶っこ※しながら、利用状況を確認したり、ルールを決めたり、次の旅行の予定を立てたり、それぞれができる範囲で役割を担いながら運営します。

※お茶っこ：お茶を飲みながら、お菓子や漬物などを食べつつ、おしゃべりをする東北独自の文化であり方言。

③経費は実費を精算

車の維持費、燃料代、駐車場代、役員手当等の経費を会員が利用頻度に応じて平等に分担しています。ルールを決めて積み立てを行い、年1回の総会の時期に精算を行っています。



地域課題の解決

- ・移動手段確保
- ・地域コミュニティ確保
- 双方を実現



↓ 修理・貸出

寄付車を貸し出すことで人と地域を元気にする
 ソーシャル・カーサポート

車を貸すことで困っている人や地域を助けたり、元気にするソーシャルなレンタカーとカーリースです。一部の取組は私たちの組織の大切な活動財源にもなっています。



レンタカーを利用したい
 (短期間の車両レンタル)

何度でも東北を訪れてもらえるように、石巻を訪れる人だけでなく、生活している人も元気になるように、そんな思いで続けているレンタカーです。



レンタカー予約

詳しく見る

巨大災害リスクに対して

- 平時から取り組める準備
(食料・飲料水のほか電気や生活用水の備蓄・確保、二地域交流※) ※例えば、田舎、ふるさと
- 人口減少下での地域コミュニティの維持 (助け合える地域の防災力)
- 発生時にむやみに動かない。とどまる。(エッセンシャルワーカー不足を意識)

エネルギー・食料確保に対して

- 地域の特色ある資源を確保
- 企業や家庭での再エネ設備導入、断熱改修などの効率化 (樹脂窓導入など)
- 生産地や季節性を踏まえた国内農作物の消費
- フードロス削減

急速な人口減少に対して

- 安心した子育て (共育、多様な働き方の実施、移住・二地域居住)
- 人口減少下での地域コミュニティの維持 (相談出来る相手)
- 地域課題への貢献 (人材は人材を寄せる。面白い人を巻き込む)

国際競争力に対して

- オープンイノベーションの推進、空間づくり
- 若手研究者の自立支援、プロフェッショナル教育の充実
- 体験型観光など多様な旅行ニーズへの対応 (日本の魅力発信＝ファンづくり)